

第2次あま市総合計画_後期基本計画策定に係る見直し検討資料

資料3

基本目標Ⅰ 安全で安心に暮らせるまち

施策1 防災対策の充実により安全が確保されたまちをつくります ①消防・救急 ②防災

【基本方針】

消防・救急体制、防災対策の強化により、災害に強い安全なまちづくりを推進します。／ 安全・安心の実現に向けて、市民、市民活動団体、事業者、学校と連携・協働して取り組むことができるまちづくりに努めます。

【前期基本計画の成果指標の評価】

成果指標名	策定時 令和2(2020)年度	中間値 令和7(2025)年度	目標値 令和13(2031)年度	進捗状況
消防・救急体制の満足度	85.9%	87.6%	86.0%	◎ (達成)
地震や水害などの防災対策の満足度	64.1%	70.6%	74.0%	○ (改善)
自主防災訓練の参加者数	5,280人 (令和元(2019)年度)	6,220人	7,000人	○ (改善)

- 市民病院の指定管理者制度導入による救急応需体制の大幅な向上もあり、消防・救急体制の満足度は目標値を上回っています。
- 自主防災訓練参加数は策定時より増加しており目標値に近付いています。

【アンケート調査における満足度結果（平均値）】

満足度	平均値 令和2(2020)年度	平均値 令和7(2025)年度	※エリア	傾向
消防・救急体制の充実	3.11	3.14	推進	↗ (+0.03)
地震や水害などの防災対策	2.66	2.74	重点	↗ (+0.08)

- アンケート調査の結果では、防災対策、消防・救急体制ともに満足度は向上しているものの、防災対策については満足度が平均値（2.81）を下回っており、防災対策の充実を図っていく必要があります。
- 今後のまちづくりに関して重要だと考える項目（35項目）のうち、「地震や水害などの防災対策」が44.3%と最も高くなっていますが、前回調査（令和2年度）と比べると、2.6ポイント減少しています。

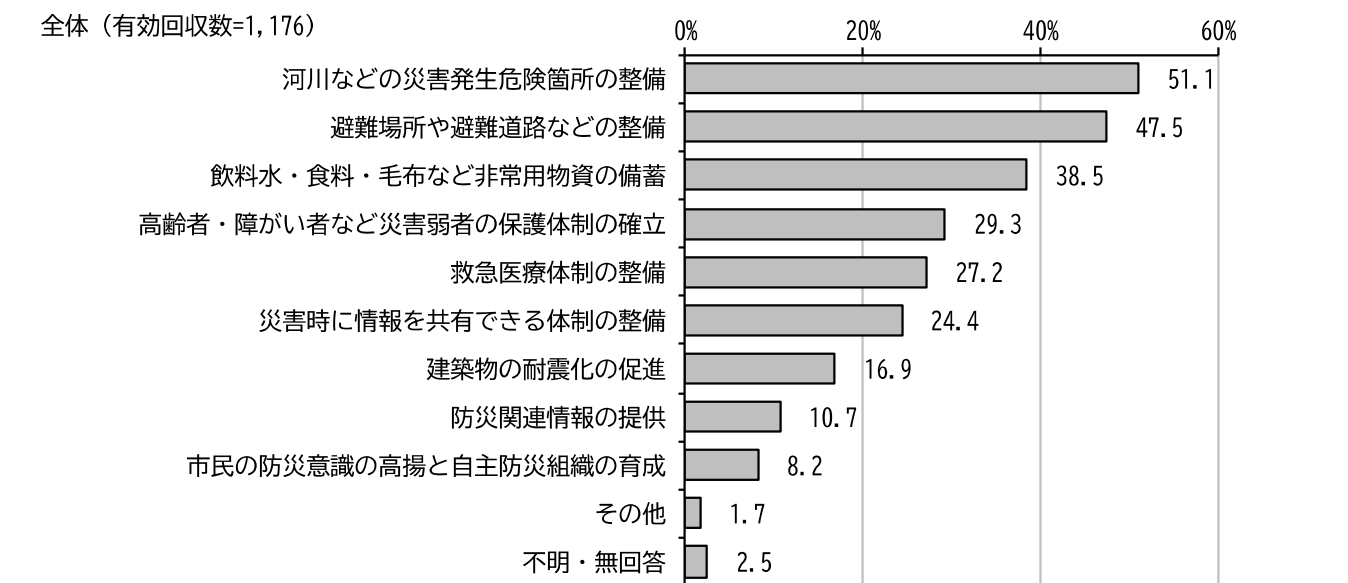
【社会情勢等の変化】

- 防災庁の創設（令和6（2024）年11月に内閣官房に防災庁設置準備室の設置）。
- 「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果」では、液状化や津波浸水、名古屋市を含めた県西部や知多半島、渥美半島などの広範囲で震度は6弱以上になると予想されています。
- あま市では、本庁舎が市域の中心部に建設されたことにより、多くの避難所との距離が近接することで、中枢防災拠点として、災害時の迅速で効果的な初期活動が期待されます。
- 近年、全国各地で下水道管等の破損による道路陥没などの事故が相次ぐ中、国土交通省は「第2次インフラ長寿命化計画（行動計画）」に基づき、事後保全から予防保全を重視し、全国で重点調査を実施しながら、優先順位を踏まえた対策が進められています。

【アンケート調査の結果】

- 市が力を入れて取り組むべき防災対策についてみると、「河川などの災害発生危険箇所の整備」が51.1%と最も高く、次いで「避難場所や避難道路などの整備」が47.5%、「飲料水・食料・毛布など非常用物資の備蓄」が38.5%となっています。

■市の防災対策について、どの項目に一層力を入れて取り組むべきだと思いますか。（主なもの3つまで○）



資料：第2次あま市総合計画後期基本計画策定等に関するアンケート調査 79頁

- 中高生アンケートでは、「防災・防犯対策の充実」を市の魅力と思うが10.2%、一方で不足していると思うが14.5%となっています。
- （第2次あま市総合計画後期基本計画策定等に関するアンケート調査 137頁・141頁）

【総合計画審議会、まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会からの意見】

- 自治会・町内会に入っていないと地域のつながりができず、防災訓練や災害時の近所同士の声の掛け合いや助け合いができない。
- 自主防災会で細かい防災訓練をしている一方、訓練が形骸化している地区もある。
- 東南海地震が必ず起きると言われている中で、ライフラインをどう維持するのか。
- 消防団と町内会や地域コミュニティとの連携など、横のつながりの強みについてふれるべき。

